

翔べ！
世界へ

目からウロコの 南太平洋留学



フィジーにあるタベウニ島の大首長の一家と（右から3人目が筆者）

日本に帰国した。その後、広島大学に職を得て、今度は学ぶ立場から教える立場になった。現在では、大学院で、発展途上国研究を志す日本人院生、また外国からやってきた留学生それぞれにかつての自分の姿を重ねながら、教育、研究を行なっている。

また、留学時代の友人とも交流は続いており、昨年には、二人の友人に寄稿してもらって、『太平洋島嶼と環境・資源』という研究書を刊行することができた。同じく昨年、留学中から取り組んでいたピジン・イングリッシュを翻訳した『ビッグ・デス・ソロモン人の回想する第

二次世界大戦』を出版する機会にも恵まれた。思い返すと、私にとって、南太平洋留学は人生の一大転機となった。私は、南太平洋で南太平洋について学んだだけでなく、人生についても学んだように思う。南太平洋留学がなかったら、そ

の後の私の人生はなかったといっても大げさではない。そうした貴重な機会、とりわけ発展途上国への留学を認めてくれる奨学金が少ない中で、私に南太平洋留学の機会を与えてくださった国際文化教育交流財団には心から深く感謝している。

経団連が事務局を務めている各種奨学金運営団体の活動により、毎年高校生から大学院生までの多様な奨学金が留学し、今日、その経験を活かして内外のさまざまな分野で活躍している。本コーナーは、留学先での経験と現在の活動の模様を紹介することにより、これら奨学金を送り出してきた奨学金運営団体への一層の理解促進と、これを支え、協力してくれた企業への活動報告とするものである。

国際文化教育交流財団は、経団連第二代会長 故石坂泰三氏の遺徳を記念し、一九七六年に設立された。これまでに、世界二八カ国の大学・大学院へ一四五名の日本人留学生を派遣するとともに、世界三五カ国四〇三名の外国人留学生への奨学金の供与や文化教育面での事業運営を実施してきている。

お問い合わせ・連絡先
経団連社会本部

小柏葉子

おがしわ ようこ



広島大学平和科学研究センター・大学院国際協力研究科助教授

国際文化教育交流財団第11回生（1986年度）
82年津田塾大学国際関係学科卒業。86～89年南太平洋大学太平洋学
研究所留学。90年津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程修了。
同年同大学国際関係学科助手。92年より広島大学平和科学研究セ
ンター助教授。94年より同大学大学院国際協力研究科助教授併任。

苦闘と苦悶の三カ月

私が国際文化教育交流財団の奨学金によって、南太平洋の島国フィジーにある南太平洋大学に留学したのは、一九八六年九月のことだった。国際関係を専攻する私の研究関心は、「非常に小さい南太平洋の島嶼諸国が国際社会のなかでサバイバルするために活発に展開している地域協力」にあり、南太平洋大学留学は、そのために極めて重要だった。というのも、南太平洋大学そのものがフィジーに本部こそあれ、島嶼十四カ国で運営されている南太平洋地域立の大学であり、私の研究テーマである地域協力のいわば「生きた現場」だったからである。

り込んでくるイモリやカエル、たびたびの断水と停電、主食がキャッサバの学食の食事、共同の水シャワーしかない寮など、南太平洋の暮らしに慣れるのにも苦闘した。「先進国に留学すればよかった」と幾度となく思い、また日本の大学院の仲間から取り残されていくような気がして、毎日があせりの連続だった。

南太平洋にドップリはまる

だが、大変だった三カ月が過ぎると、私は南太平洋の生活になじめるようになった。毎日、真っ黒になって、ゴムぞうり、時には裸足で歩き回り、午前中の勉強が終ると昼食後に昼寝をし、夜は勉強した後、寮の部屋でニューカレドニア出身の親友とおしゃべりしながらティータイム。大学の休暇中は、大学で知り合った友人の家にホームステイさせてもらい、インタビュ調査を行なう。なにせ地域立の大学であるため、友人の範囲は太平洋中におよび、トン

ガやソロモン諸島など、フィジー以外の島国を訪れることもできた。

そうした生活の中で、いろいろなことを見聞きし経験して、改めて南太平洋について認識を深めたり、びっくりさせられたりしたことも数多くあった。例えば、家族の概念。南太平洋では、一般に結婚、離婚が比較的容易に行なわれる。そのため、時とすると、兄弟全員が親が違ふとか、兄弟の肌の色が違うということも起きる。

しかし、それによって子供がいじけたり、いじめられたりすることもなく、みな兄弟として自然に暮らしている。日本の家族関係とはずいぶん違うなあと思ったものだ。

「南太平洋で学んだこと」の還元を目指して

留学中の一九八七年にはフィジーで二度もクーデターがあったりと、いろいろな経験をした後、私は「浦島花子」よろしく一九八九年二月、昭和から平成に変わった